

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年8月29日 第6号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



空と雲と人と

校長 鮫島 弘樹

薄くて柔らかそうなすじ状の雲が、まるで天女の羽衣がたなびくように、いくつか並んで伸びているのが見えます。

別の方角にはたくさんの白いわた雲が、青色を背景にゆっくりと流れています。

遠くに目をやると、入道雲がお互い競い合うように、天に向かってモクモクと高さを増していく様子が見られます。

この夏、県内外で行われた部活動の大会応援などのため、新座から遠く離れた地を訪れる機会が多くありました。

高い建物がない地域で感じるのが、空の広さです。そして、そこに広がる様々な雲の姿に、度々感嘆させられました。

いくつもの種類の雲が伸びやかに、複雑に重なり合いながら大空に浮かぶ絵柄は雄大で、自然の織り成す神秘的な芸術のようでもありました。

「私は、身の回りの整理整頓やあいさつなど、どんなことでも徹底してきちんとやるべきだと思っています」

夏休み中、ある人（四中の関係者ではありません）からこのような主旨の話を聞く機会がありました。

机やカバンの中がぐちゃぐちゃでは、必要なものを失くしたり汚したりしがちで、好ましいことではありません。

あいさつも然（しか）りです。人と人との良好なコミュニケーションは、気持ちの良いあいさつから成り立つものです。

さらに、人との約束を忘れたり、時間に遅れたりすることが度々あるようでは、社会的な信用を得ることができません。

これでは困るので、本校でも基本的な生活習慣を身に付けられるよう、継続して指導しているところです。

しかし、「自分自身だけでなく、周りにきちんとできない人がいたら、その人にもしっかりとやるよう求めていきます」という考えを聞いたとき、私は少し息苦しさを覚えてしまいました。

「身の回りは、きれいに整理整頓すべき」「夜〇時には寝るべき」「やると決めたことは、最後までやり通すべき」などは、いずれももったもなことです。

一方で、「分かっているんだけど、なかなかできなくて」という弱さを持っていることもまた、人間らしさなのではないのでしょうか（「できなくても当然です」と、開き直ってはいけません）。

他人を不快にさせたり、迷惑をかけたらない範囲で、お互いに「～べき」を求め過ぎないバランス感覚が、心地よい社会につながるのだと思っています。

空の面白さは、様々な特徴の雲が色彩を変化させながら、伸びやかに組み合わせられているところにあります。

同じ形や大きさの雲が窮屈そうに並んでいても、あまり感動はないはずです。

人の世界もまた、多様な性格や特性の人々が集まっているからこそ、面白みのある社会が成り立っているのでしょう。

では改めて「中学校の役割」とは何なのかについて、頭の中でグルグルと考え続けた私の夏休み期間でした。